

ピカイチ先生の  
生活経営セミナー

2022年10月  
「新しい物語」を語る  
(⑤金融資本と階級)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038  
福島県南相馬市原町区日の出町167-3  
info@next-life-consult.com

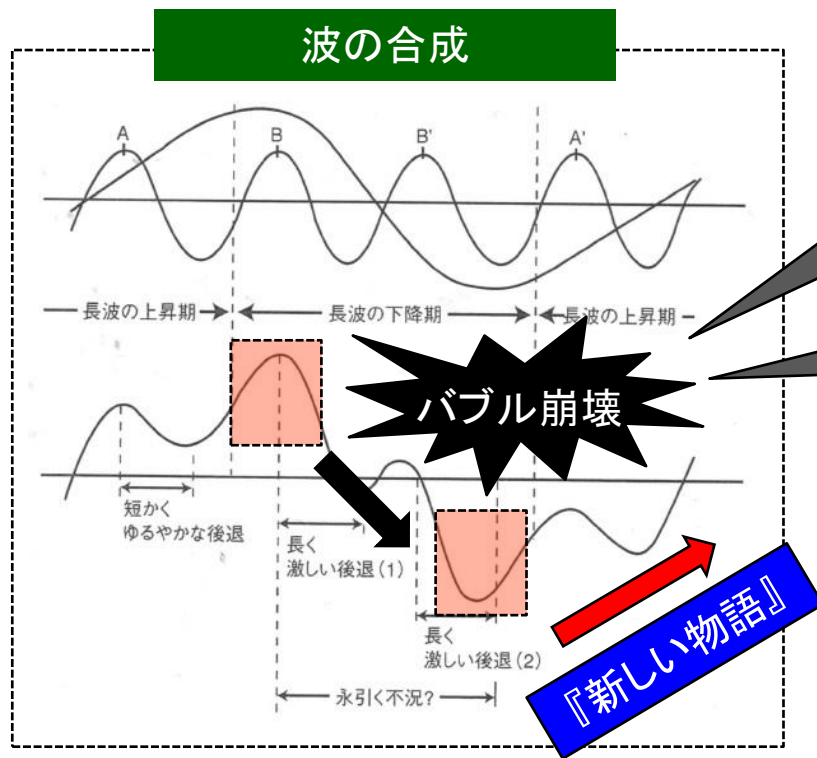


ピカイチ先生

ピカイチ生活経営塾

検索 ←

# 【論点】 「新しい物語」を語る



## 【バブル1】

たとえばドイツのような低金利の国においても、商品の値段に占める金利の割合は20%を超えるのではないかとされており、金利コストは決してバカにならないものなのです。

『失速する世界経済と日本を襲う円安インフレ』より

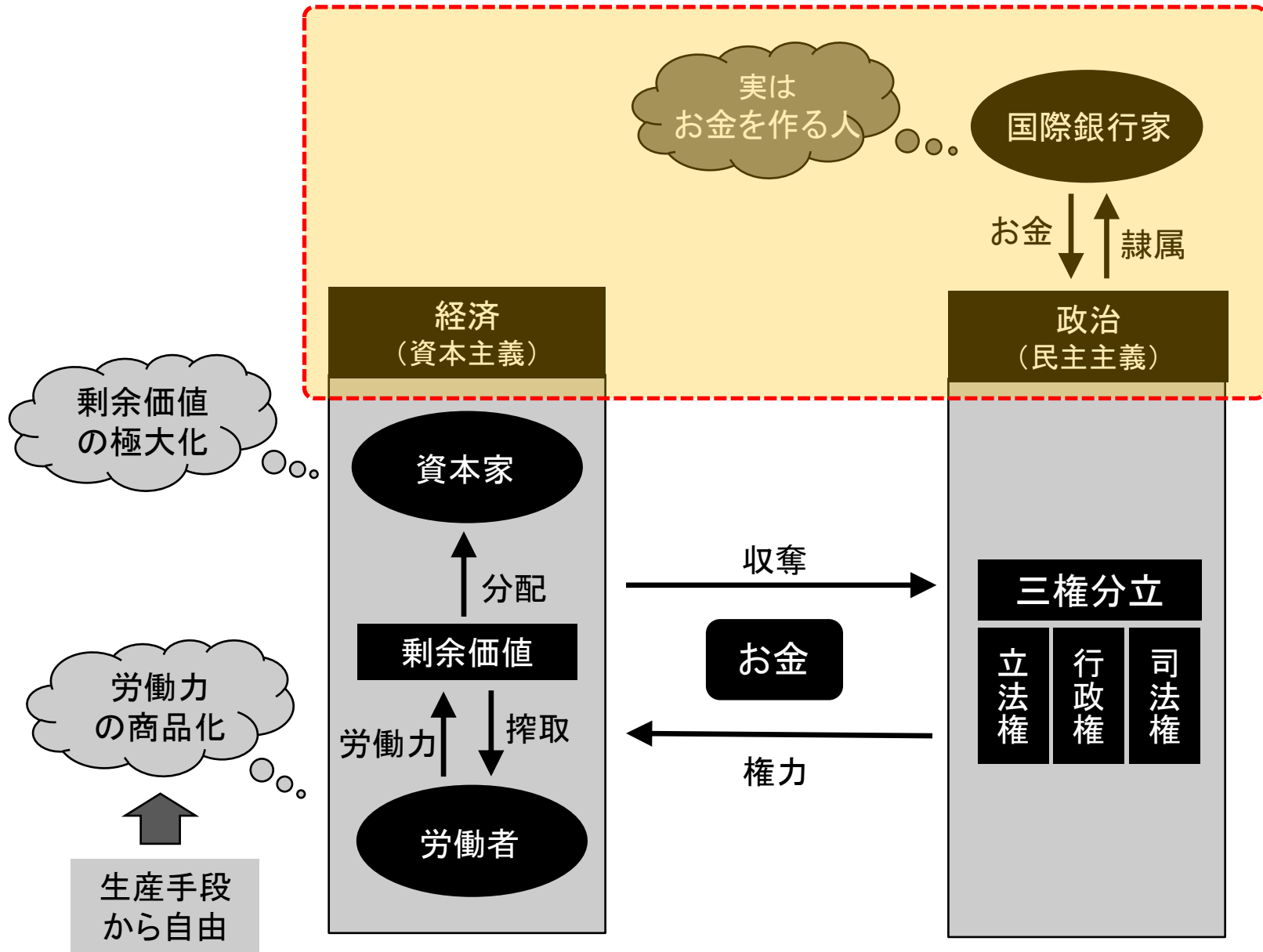
## 【バブル2】

日本の人口1億2600万人のうち、3000万人ですから、実に4人に1人が公務員でご飯を食べているわけです。

『日本壊死』より

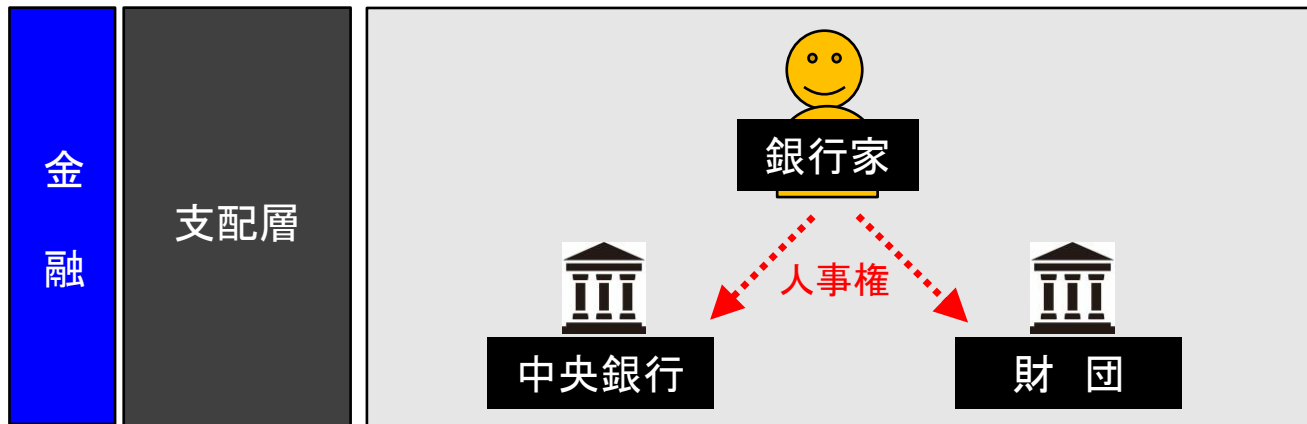
『真の民主主義』

# 【論点】 資本制社会のしくみ

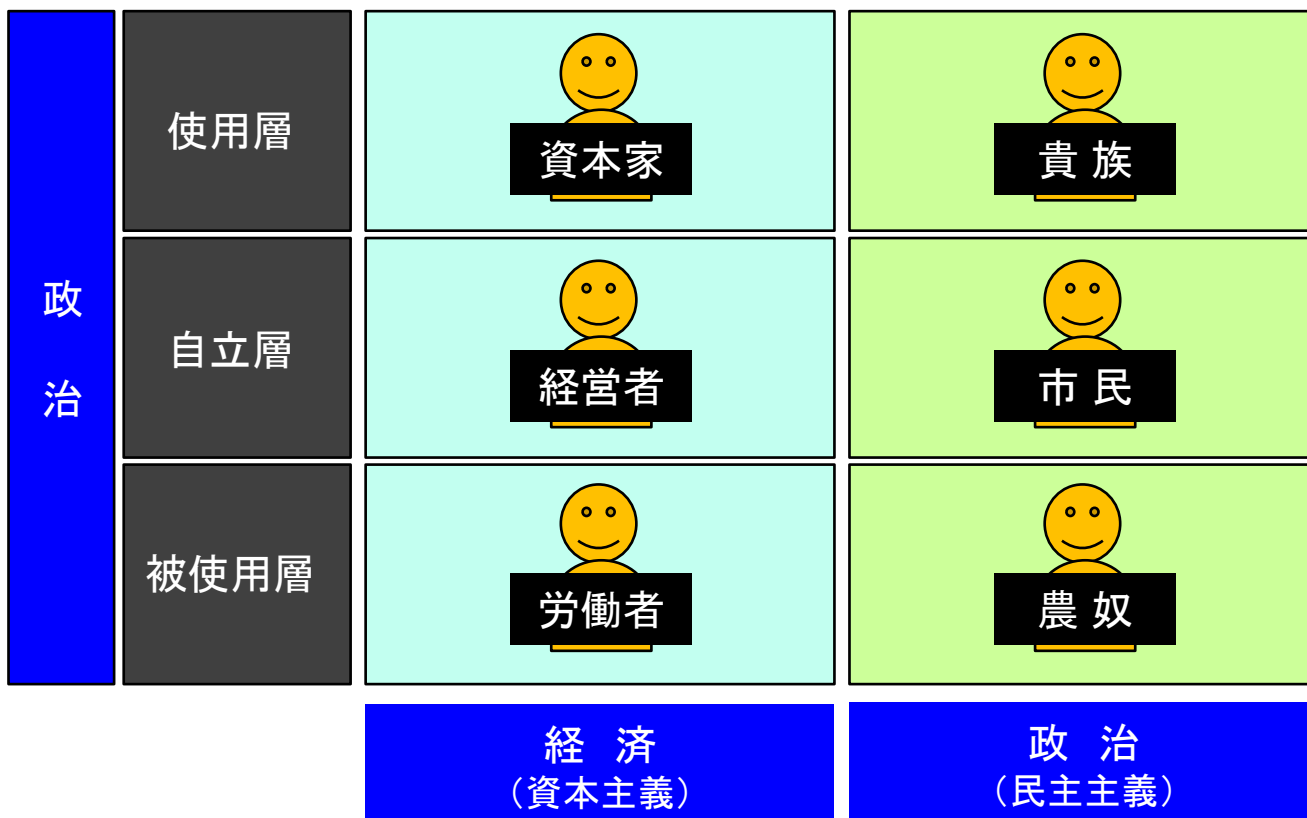


# 【論点】 権力支配のしくみ

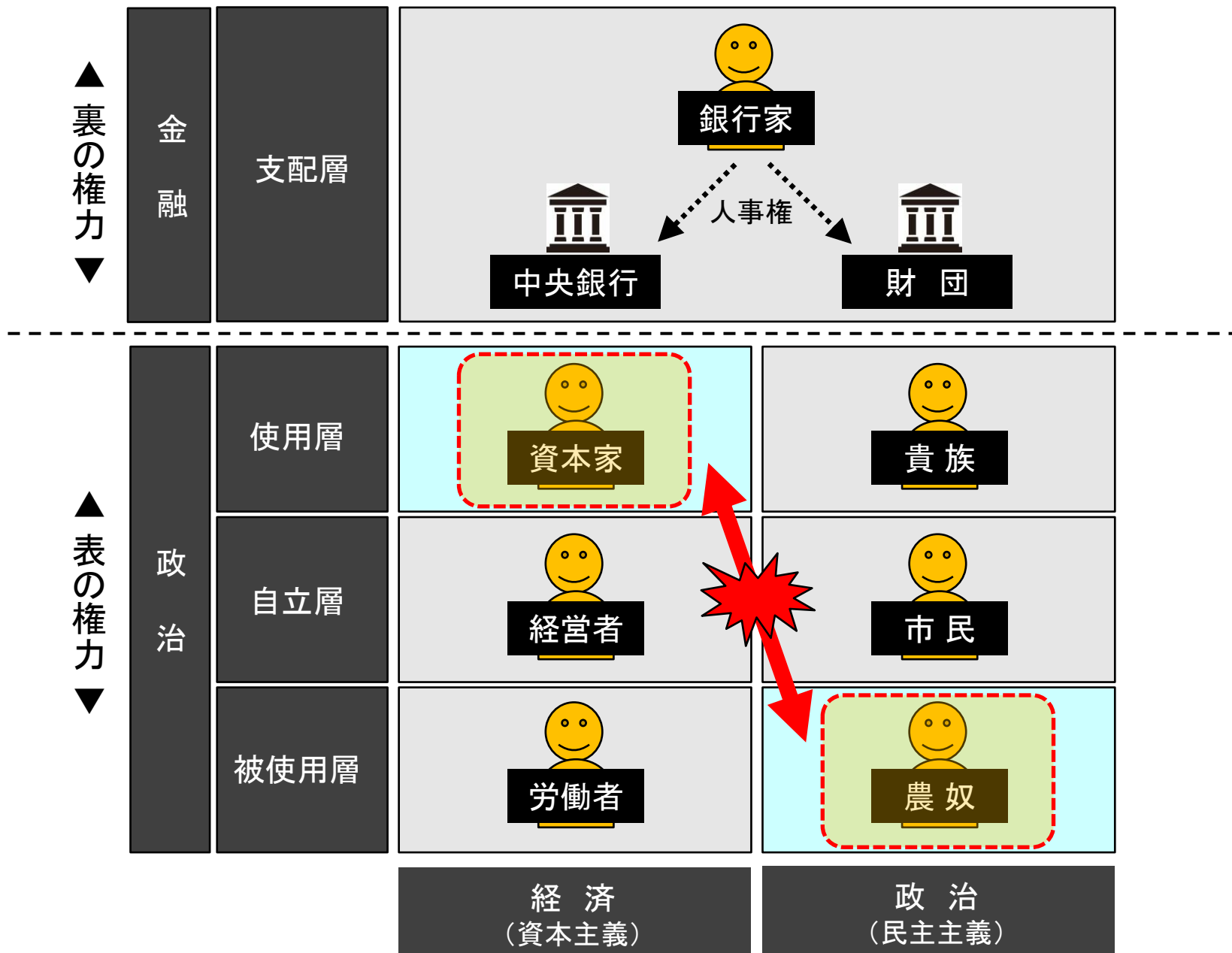
▲裏の権力▼



▲表の権力▼



# 「資本主義」と「民主主義」 (1/4)



資本主義制度の本質は、1%勢力の幸福を追求するというものです。巨大な資本を保持する1%勢力が99%の労働者階層を労働者として活用し、巨大な所得と富を蓄積していくのです。

1%の利益を追求する資本主義と人民主権、すなわち99%の人民の幸福を追求する民主主義とは、本質的に相容れない部分があります。20世紀に入り資本主義の限界、資本主義の弊害が顕著になり、この資本主義制度にメスを入れる考えが浮上してきたのです。

経済活動を市場原理に委ねれば、必然の結果として格差が拡大します。資本主義社会における生産活動は資本家による巨大な資本投下と、労働力の結合によって行われます。しかし資本を持たない市民は労働力を提供して対価を得る以外に生きる道を持ちません。持つ者と持たざる者の関係は不平等で、資本家は低廉な労働賃金によって超過利潤を獲得して資本蓄積を加速させていくのです。

しかし所得の格差拡大は、生産力と購買力の不均衡を拡大させてしまいます。生産拡大によって増大する所得が1%の資本家に集中し、99%の人々による消費需要が生産力と乖離してしまうからです。

その結果として経済恐慌が引き起こされるのです。同時に搾取される労働者の不満が蓄積され、社会の不安定化がもたらされます。こうした問題点が明らかになり、資本主義のあり方を修正する試みが拡大したのです。

東側陣営で新たな体制を構築する動きが本格化しました。1917年にロシアで革命が勃発。ソビエト社会主義共和国連邦が樹立されました。中国共産党が創立されたのは、1921年のこと。2021年には中国で中国共産党創立100周年行事が大規模に実施されました。

西側諸国では経済運営のなかに「所得再分配」の機能が取り込まれました。同時に労働組合育成など、労働者の権利を守る取り組みも本格化しました。英国では社会保障政策が拡充され、「ゆりかごから墓場まで」の言葉が用いられるようになったのです。

ところが1970年代を通じて資本主義制度の修正を強化した欧米諸国で経済活動の停滞が目立つようになりました。この結果として、資本主義の修正を再度修正する動きが本格化したのです。これが1980年代以降の規制撤廃、新自由主義経済政策の浮上につながっているのです。

## ■ 米国は本当の意味で民主主義国家と言えるのか？

自由を基礎に据えれば、1%の幸福が追求され、不平等が際限なく拡大します。他方、99%の幸福を追求して平等を基礎に据えれば、自由は強く制限されることとなります。

資本主義は本質的に1%の幸福を追求するものであるため、その目標達成において民主主義は邪魔な存在ということになるのです。

現代社会における実権を1%の勢力が握っているとするなら、民主主義はどのように扱われることになるのでしょうか。1%の支配者にとって民主主義の制度は最大の障壁、最大の敵ということになります。

そこで着手されるのが民主主義の偽装です。表向きは、民主主義に見せかけながら、民主主義がその本領を発揮しないように工作する、これが現代資本主義国家における民主主義の実相だと言えるのではないのでしょうか。この本質を見抜くことが大事になります。

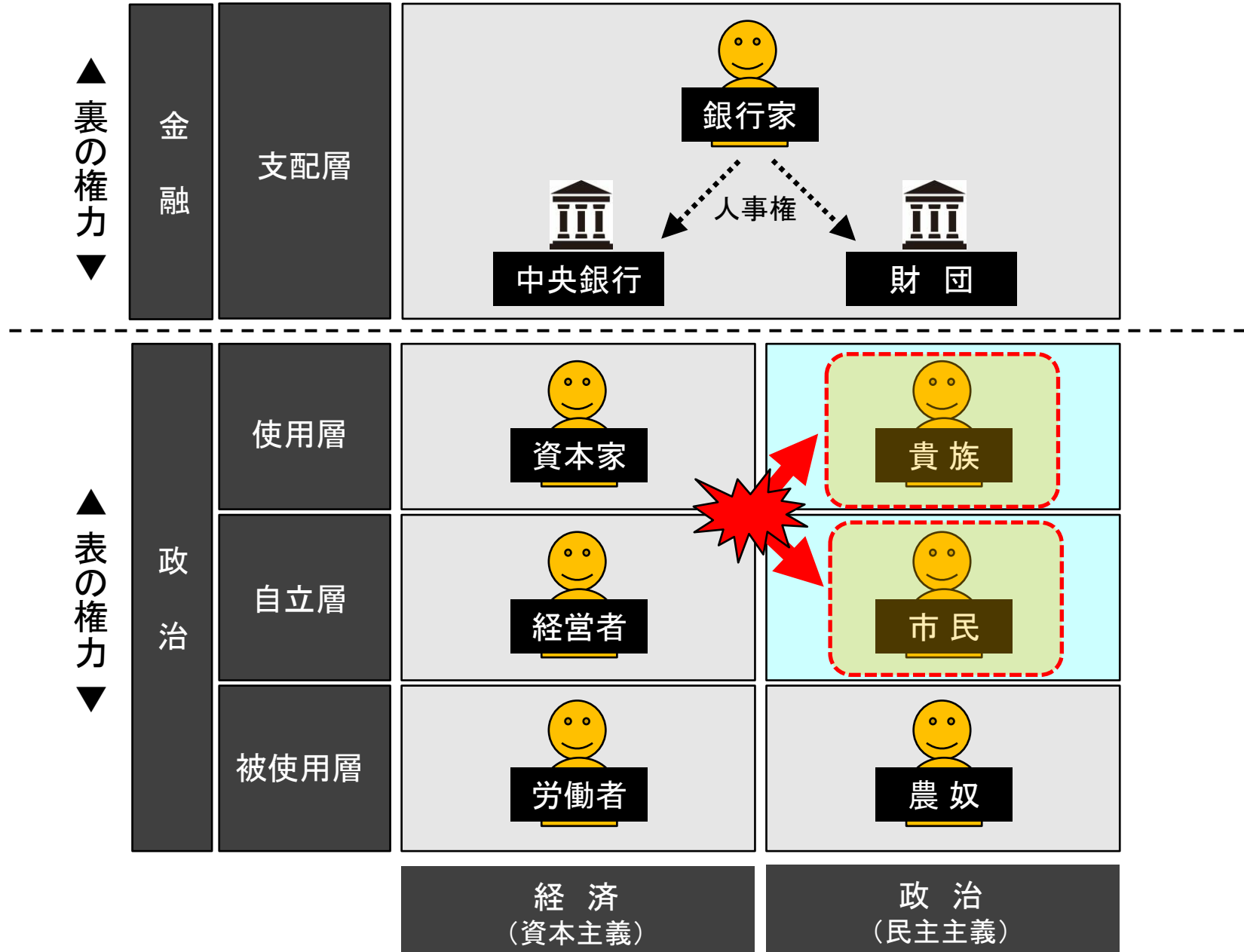
米国の政治制度は突き詰めると、米国を支配する巨大資本が政治権力を必ず握るように構築されています。その内実がありながら、人々に、その真相＝深層を気付かせないために最大活用されているのがメディアなのです。権力者はメディアを支配して人々を洗脳します。これがメディアコントロールであり、ヘレナ・ノーバーク＝ホッジさんが指摘するグローバリズムの本質なのです。

米国は中国の人権問題、非民主主義体制を批判の対象にします。自由・人権・民主主義・法の支配・市場経済、という価値観を共有する国の連帯を強める。この言葉は、正当性を持つように見えますが、実際には西側諸国においても民主主義が偽装されている、あるいは人権が抑圧されている側面が存在することを見落とせません。

自由と民主主義を掲げる西側諸国においても、実態上は民主主義の装いを凝らした1%による実効支配が行われている点を見落とすことができないのです。



# 「市民」と「改革」 (1/3)



市民という言葉日本人は勘違いしている。市民というのは、横浜市民とか武蔵野市民というような、そんなただの住民を表す言葉ではない。

お金持ちのことを指す。従業員 50 人と同じように奴隷を 50 人とか抱えていた。古代ローマ帝国ではシビリス (civilis) という。商人階級であり、裕福な上層職人階級だ。

西洋の城というのは、日本人が思っているようなものではない。中国でもヨーロッパでもどこでも、お城 (キャッスル) には軍隊がいて王様を守っている。たいていは山の上にある。

この山城の外側にもう一つ、広々とした城壁が 2 キロ四方ぐらい続いてその内側が全部で都市だ。そこに住んでいる市民たちがシチズン (シビリス) だ。そこには学校があり、市場があり、教会もある。

そこに住んでいる人々は金持ちで、職工長 (マイスター) たちから上の豊かな商人たちだ。戦争があるとその城壁の中に逃げ込める人がシチズンです。百姓たちはその外側で農業をやっている。

死体は城壁の外側に投げ捨てる。そしてそれをオオカミが食べに来た。人間が食い殺されたり、農民が襲われたりした。百姓というのはいつの時代もどこの国でも半分奴隷 (農奴) です。殺されようがどうだっていい。

この城壁の中の市場（いちば）に昼間人々が集まっていて、東西南北に四つ門があって安い通行税を払えば誰でもそこに来られる。すべての税金の始まりは通行税（トールゲイト・タックス）です。

シチズンたちは選挙権を持っていて、投票で貴族たちの中から職員を選ぶ。

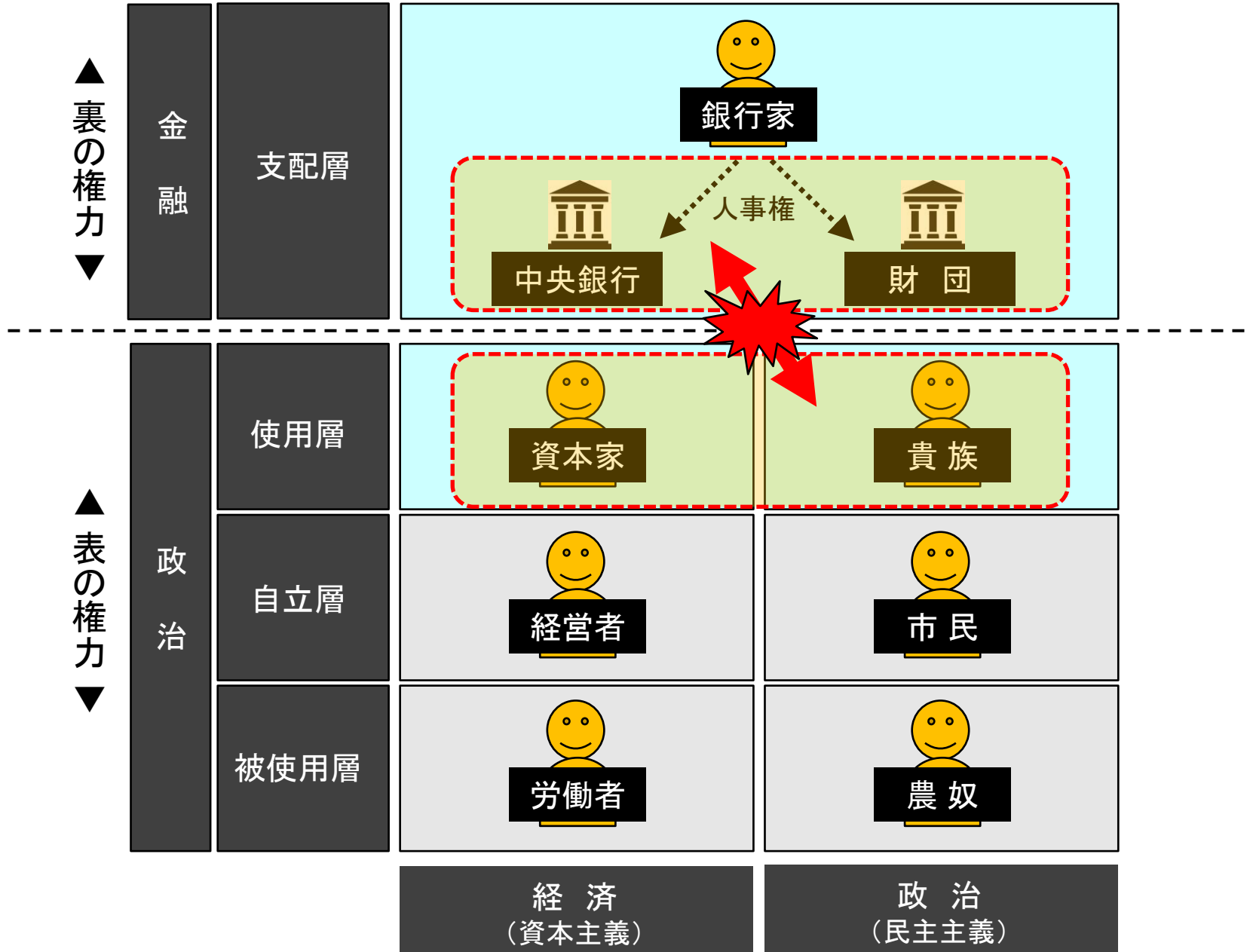
貴族たちがお金の力で彼らの票（支持）を買うのは当たり前のことだった。ローマ帝国のカラカラ大浴場みたいに、市民たちに大きな風呂場を作ってくれた軍人が皇帝になる。そういうことも公然と行われた。市民たちはこのように投票権を持っていた。

やがて勃興したこの市民階級が、「自分たちの方がずっと能力があって優れているのに、どうしてこんなに馬鹿な貴族と坊主たちから蔑（さげす）まれなければいけないのだ」と怒り出した。「許せん。我慢できない」と言い出した。

それでこの人々がフリーメイソンリーを作ってどんどん政治的に団結するようになった。そしてアメリカ独立革命もフランス革命も起こした。

その前まではキリスト教会から破門されるのが恐かった。「地獄に落ちるぞ」と坊主（僧侶）から脅されると反論できなかった。だから彼ら市民階級は、神 God に取って代わるものとして、プロビデンス providence 「摂理」とかラチオ ratio 「合理」とかりーズン reason 「理性」という新しい思想を作っていたのです。このことが重要なんだ。

# 「金融」と「政治」 (1/4)



ザガミの系統は古代エジプトの医者や科学者団体から始まり、さまざまな秘密の技術や知識を持っている。彼らが受け継ぐ帝王学や特殊な技術・知恵は古代エジプトからギリシャ、そしてローマへと伝わった。これを知ることができるのは、伝統として特別な血筋があるものだけだと言う。

この人達は一般市民の住んでいる世界を“プロフェイン・オーダー（下界）”と呼ぶぐらい自分達と一般人を区別し、感覚もかけ離れている。またフリーメイソンの中でも、下級階層に教えられる“架空の歴史”と、組織のトップ階級にだけ明かされる“真実の歴史”の2つがあるという。

ここで、ザガミが属するイルミナティを取り巻く欧米の権力構造について簡単に説明しよう。

欧米社会では2つの権力の柱が表裏一体となっている。表は政治、裏は金融だ。

政治は表向きの権力であり、一般人の誰もがその存在を知っている。政治が法律を作り、行政が執行し、警察や司法が管理する表の社会だ。民主主義というルールの中で、みんなが見える形で権力が行使されている。

しかし、その一方で陰に隠れた権力が歴史的にずっと存在している。それは「お金の権力」だ。「お金の権力」には民主主義のルールは適用されない。何千年も前から王族が特権として管理していた。そして、権力の中枢を守るために自分たちの存在を隠すか、権限がない象徴のように見せかけるかのいずれかの方法をとっていた。

その結果、血筋を守るために王族同士の結婚が繰り返された。そのルーツをたどると、すべて古代イスラエルの王、ダビデの子孫、親戚ということになる。ダビデの子孫は、すなわち救世主（メシア）と考えられており、その到来を待ち望まれた指導者という立場だ。

そしてそれぞれが自分たちの系統下に伝統的な組織を有している。まず王族の側近には騎士団がつけられる。欧米の中世時代の戦争映画などでもよく見られるが、それぞれの騎士が自分たちの旗を持って戦争に臨む。そしてその旗についてくる軍隊がいる。それはその騎士についているフリーメイソンであり、秘密結社の軍隊でもある。

一番のトップは本当に少人数で、彼らだけの話し合いで物事を決める。しかし王族は親戚同士ではあっても一枚岩ではない。

現在、欧米の闇の権力者の代表格としてパパ・ブッシュ（ジョージ・H・W・ブッシュ元大統領）がいる。（中略）

もう一つ大きな権力者は、エリザベス女王である。（中略）

そしてもう一つの大きい権力者がローマ法王だ。ただしローマ法王は表の存在であり、裏には闇の権力者がいる。（中略）

『これが闇の権力 イルミナティの内部告発だ！』（2009.11.09 ベンジャミン・フルフォード）より

騎士団といってもスイスの騎士団や赤十字など戦争を仕掛けない中立的なものもある。すなわち、騎士団と言っても多種多様なのだ。

建前上、これらすべてのトップに君臨していたのがアメリカの大富豪ロックフェラー家の当主デービッド・ロックフェラーだ。彼の権力の源泉は米連銀（FRB）にあるドルの印刷機だ。

もう一人、ここに加わってくるのが、イギリスのユダヤ系財閥ロスチャイルド家のエヴリン・ロスチャイルドである。

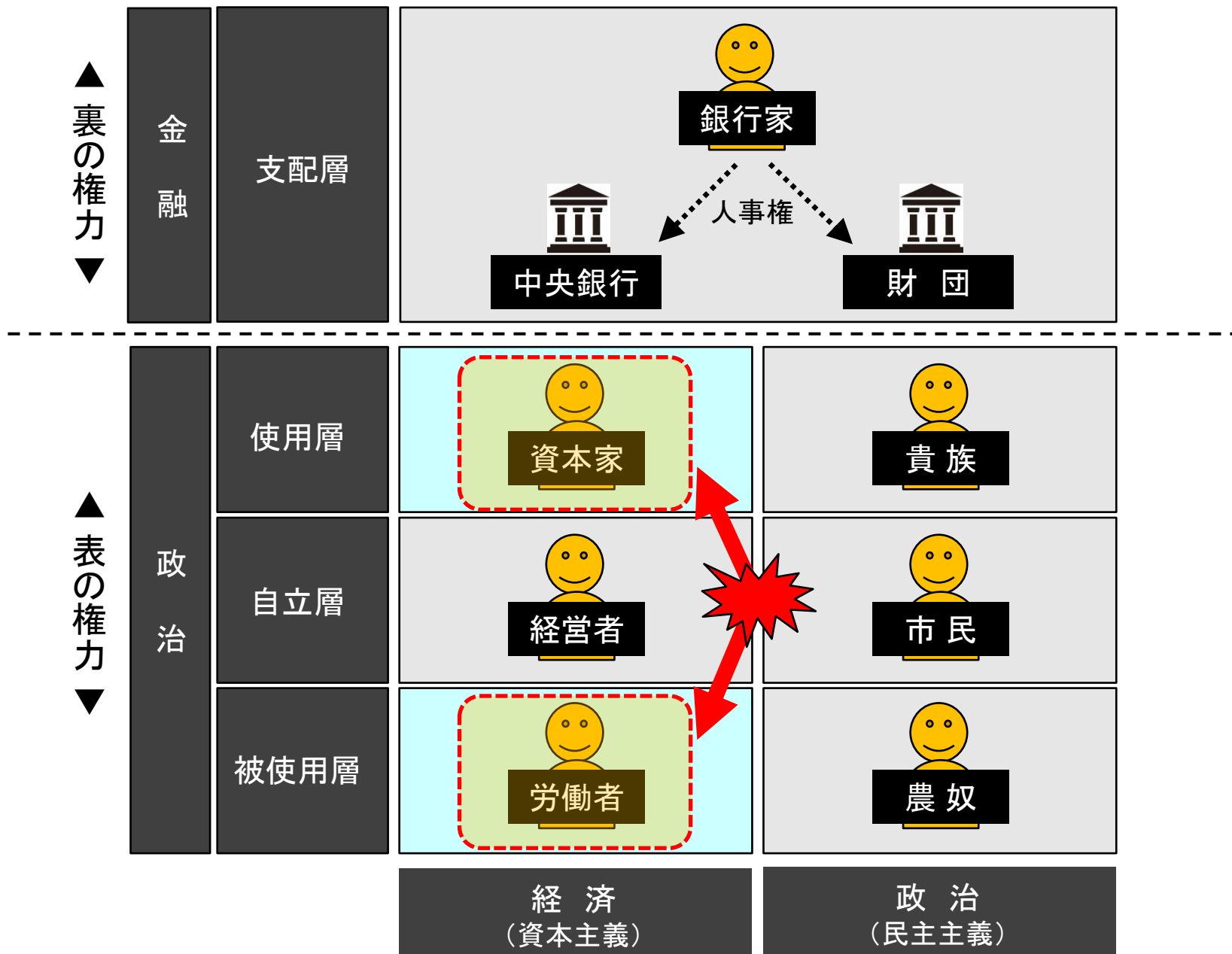
エヴリン・ロスチャイルドも建前上すべてのトップであったが、とりわけ軍事・金融を統括していた。そしてドルやユーロの印刷を取り仕切っていた。

彼らの傘下にも騎士団、フリーメイソンが属している。そしてそのワンランク下には、オランダ、フランス、ベルギーのロスチャイルド分家がある。簡潔に言えば王族を頂点に、その下に騎士、その下にあらゆる秘密結社、軍隊などが所属する。

これが欧米の闇の権力の構成なのだ。

『これが闇の権力 イルミナティの内部告発だ！』（2009.11.09 ベンジャミン・フルフォード）より

# 「資本主義」と「格差」 (1/4)





ピケティが『21世紀の資本論』で述べている最大のポイントは、歴史的資料を検証した結果、「『 $r > g$ 』が常に成り立つ」という点です。  $r$  は資本収益率、 $g$  は経済成長率です。

つまり、「資本を使って投資をしたときの収益率の方が、労働によって得られる賃金の上昇率よりも上回る」ということです。

さらに単純化して言えば、資本主義のもとでは「投資ができる人ほど裕福になりやすい」＝「お金持ちはさらにお金持ちに、貧困層はさらに貧困になる」ことがわかったと言っています。

このことを「証明できた」と言ったところ、その本がアメリカで爆発的なヒットをしたわけです。 さて、この結論、この主張は、それほど熱狂的に支持されるほどすごい発見なのでしょうか。

少なくとも私には、あまりにも当たり前のことに感じられます。 おそらく、多くの読者の方々にとっても、「そんな当たり前のことを、700 ページも使って書いたのか」と思うのではないのでしょうか。

資本を使って投資した方が、労働によって賃金を得るよりも大きいなんてことは、感覚としてはあまりにも当たり前です。 もし仮に、投資よりも労働の方が収益率が高くなるなら、誰も投資などしません。 投資にいそしむ暇があったら、せっせと労働した方が得だからです。

よくよく考えれば、言うまでもないことなのですが、労働よりも投資の方が収益率が高いから、投資資金のある多くの人が投資をしようとするのです（ピケティの主張は、それらの「収益率の伸び」の比較ですが、結論としては同じことです）。

それをいまさら、鬼の首でも取ったかのように言う意味がわかりません。

そもそも資本主義とは、資本を投資することによって社会の富を増やしていくシステムを言います。

労働による収益率よりも資本による収益率の方が上回るのは、あまりにも当たり前です。

なぜ、そんな当たり前なことをいまさら声高に叫び、しかもアメリカで多くの人に受け入れられたのでしょうか。

一つは、アメリカでの経済格差の深刻化があります。

2011年9月に、アメリカ・ニューヨークのウォール街で起こったデモに象徴されるように、アメリカ社会では金融資本家と一般労働者との経済格差に対する反発が強く、その反発はデモという形としては収束したものの、現在でも多くの労働者たちの中でくすぶり続けています。

そこへ、ピケティが「資本主義には格差が最初から内在している」「放っておいたら、格差は広がるばかりだ」「だから、資本家向けに資本の累進課税を掛けるべし」と、自分たちの考えを代弁してくれたわけです。

しかも、「資本への累進課税」という解決策まで提示していますので、中間層や貧困層にとっては、その内容を知れば知るほど支持したくなってしまおうでしょう。

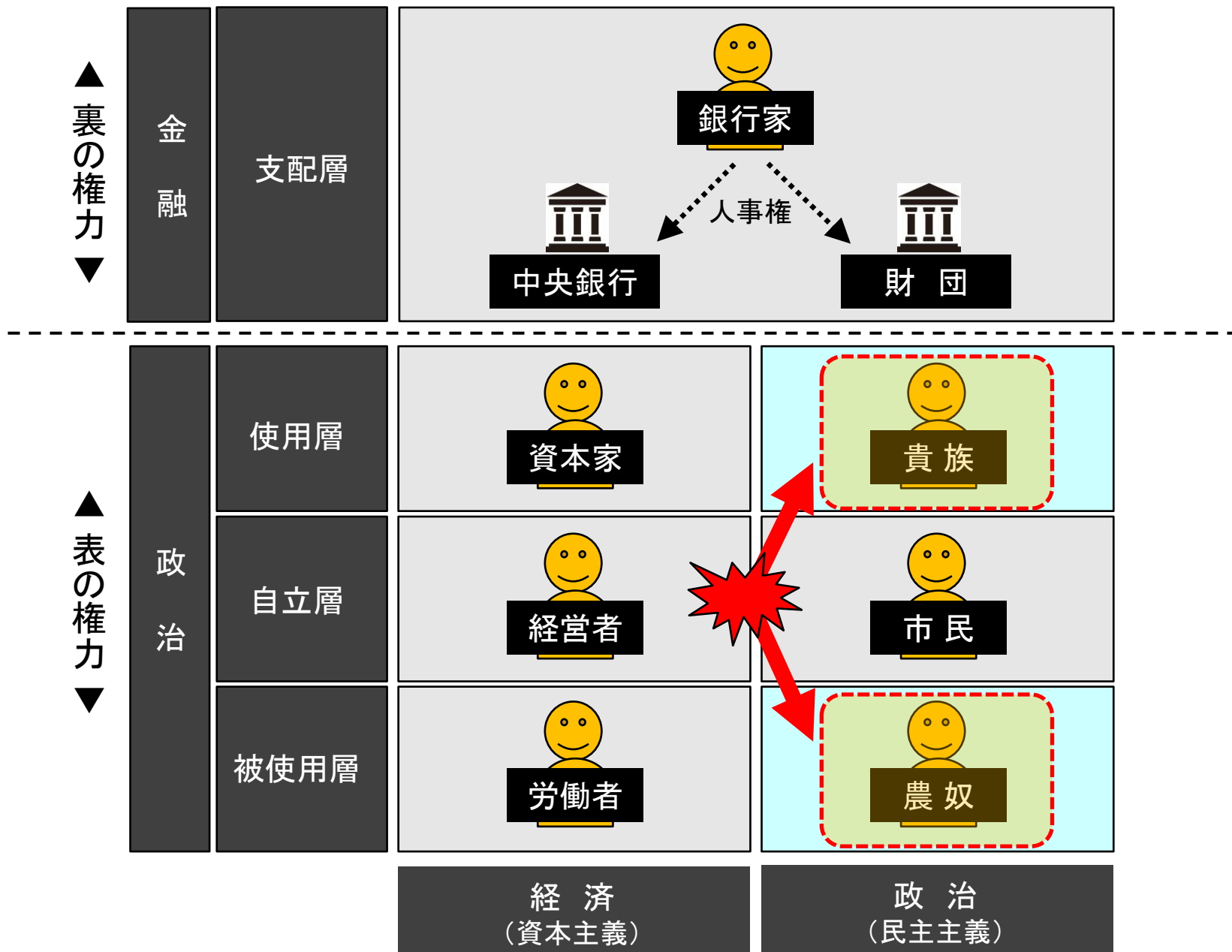
もう一つ考えられるのは、アメリカ人たちの多くは本気で「経済格差は常に自己責任であり、頑張れば誰にでも逆転のチャンスがある」と考えていたふしがあるということです。

「自分が貧乏なのは自分のせいであって、頑張れば克服できる」と多かれ少なかれ思っていたところに、「そうではなく、資本主義というシステムを取る限り、格差は自然に広がって行くんだ」と言われたために、衝撃を受け、新鮮な視点を与えられ、目からウロコが落ちたような感覚を覚えたのだと思います。

アメリカンドリームへとつながるビッグチャンスは、常に誰の前にも転がっていて、それを掴めるかどうかはその人次第だと思っていたのに、「そんなものはない」と正面切って言われたのが、非常に痛快だったのかもしれない。

いずれにしても、私たち日本人の感覚からすると「当たり前」と感じるのが、アメリカ人たちにとってはまったく当たり前ではなかったことは間違いありません。

# 「民主主義」と「人権」 (1/4)



## ■ 餓死する人間が 1 人も出ない世界は実現するのか？

完全に自由になることの先に開ける世界は、どのようなものでしょうか。それは、絶対的な唯一の価値が存在するという幻想を否定する世界の到来でしょう。

これまで述べてきたように、ありもしない存在を信じ、それが唯一の価値であるとする宗教現象は、宗教だけにかぎった話ではありません。資本主義もそうだし、アメリカの一国主義も同じだということは、指摘したとおりです。それらはすべて、ひとつの価値にすべてが還元できるという幻想によって成り立っています。

世界の国民にとってどのような状態が理想的か、自分が世界の王様になったつもりで、一度考えてみてください。

私が真っ先にイメージする世界は、餓死する人間が 1 人も出ない世界です。日本国憲法をはじめ、たいていの国の憲法で保障されていることに、生存権があります。これをまず、世界的に保証することです。

そして、もうひとつ必ず保障しなければならないのは、機会の均等です。お金持ちに生まれる人、ハンサムに生まれる人、いろいろな人がいますが、どのように生まれたとしても、それぞれの人に平等に機会が与えられることが大切です。

そのために、日本国憲法では教育を受ける権利が保障されています。ある人は教育を受けられて、ある人は受けられないとしたら、機会均等とはいえません。

私が世界の王様だとしたら、最低でも生存権と機会の均等を保障する世界をつくらう、と考えます。

現代の世界は、そうなっているでしょうか。たとえば、いま世界の9人に1人が飢餓状態にあります。世界の人口を72億人とすれば、8億人がこのような状態に置かれているということです。そのため、餓死する人や栄養状態が悪くて病死する人は、後を絶ちません。

飢餓だけの問題ではなく、戦争で死んでいく人もたくさんいます。アフガニスタンやイラクでは、多数の民間人が戦争に巻き込まれて命を落としました。いままたシリアやウクライナで犠牲者が出ています。

この事実からいえることは、世界では生存権が保障されていないということです。

## ■ 日本国内にも厳然と存在する「カースト制度」

では、**機会の均等** は保障されているでしょうか。

これは、世界のどの国に行っても、まったく保障されていません。たとえば、インドであれば、カースト上位のバラモン、クシャトリアに生まれなかった人は機会ゼロです。

いまだにカースト制度を維持しているインドは例外的な国だと考えるかもしれませんが、表向き平等を装っている世界の国々においても、見えない身分制度はいまだにつづいています。

日本においても、事情は同じです。たとえば、民主党政権が生まれた後も、世襲議員が国会議員の総数に占める割合は25%にのぼります。

25%という数字を甘く見てはいけません。日本の人口対国会議員の比率でいうと、国会議員の親を持つ子どもは、ふつうの人よりも選挙で当選する確率が2万倍も高いという事実をこの数字は表しています。また、自民党では世襲議員の割合は40%、大臣では50%です。

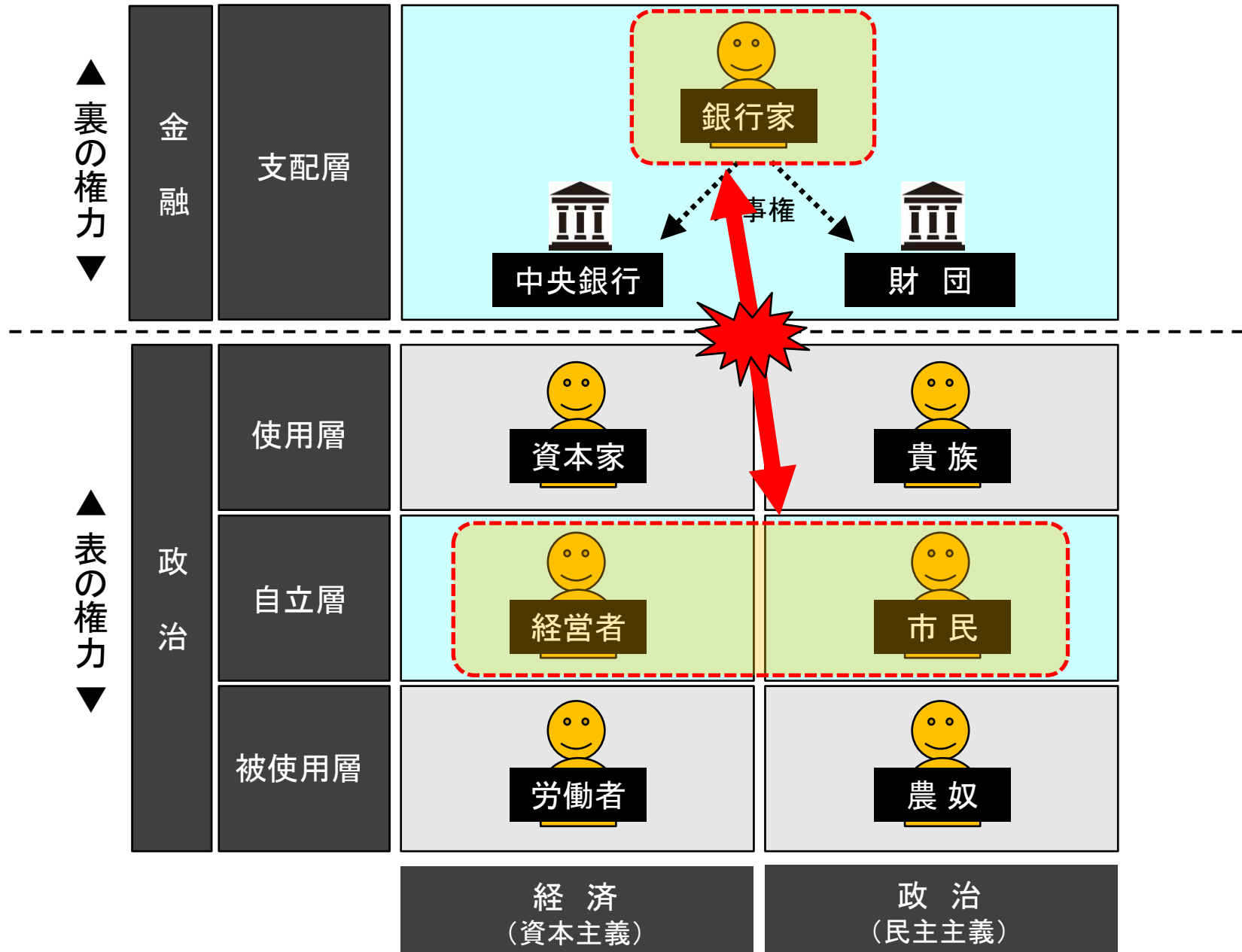
選挙の投票において、1票の格差が合憲か違憲かがよく問題にされます。最高裁が違憲と判断したのは、昭和47年の5倍と、昭和58年の4.4倍で、たしかに大きな格差です。しかし、世襲議員の当選確率が2万倍も高いという事実の前では、あまりにもかわいらしい違憲状態だといわなくてはなりません。

あるとき、日本で一番人気のある職業は、国会議員であるといわれていました。とすれば、日本で一番人気のある職業につけるかどうかは、親が国会議員であるかどうかで決まるということになります。つまり、出身階層によって子供の職業が決まるインドのカースト制度と同じ結果が、日本でも現実にも生まれているということです。

こんなことで、機会均等が保障されるはずはありません。本来ならば、国会議員の親を持つ人間が立候補することは違憲と判断し、例外なく禁止するくらいの思い切った措置をとっていいはずですが。



# 「縁故主義」と「能力主義」 (1/3)





【ザガミ】イルミナティの問題は、彼らは彼ら自身の理解や自覚に基づいて世界を変貌させたがっています。問題は、こういった知識を下界の人々に与えても、普通の人たちは本当の民主主義がこれまでになかったことを知っているのです。

日本人はわかるはずですが。日本には民主主義がないことを。ここには人形劇のようなものがあるだけです。あなたも長いこと日本にいておわかりでしょう？ アジアには民主主義などないことを。民主主義は人形劇みたいなもので、真の民主主義など存在しないことが。ある種の組織が世の中を動かし、支配しているのです。

【フルフォード】そこに根本的な違いがあるわけです。

紀元前5世紀の中国戦国時代の思想家墨子（ぼくし）はネポティズム（縁故主義）を禁止すべきだと説いていました。

アジアの秘密結社やヤクザの組織の規律でも、ネポティズム（縁故主義）は禁止されています。家族の一員は次のボスにはなれない、次のボスは血縁でない人でなければならない、というものです。このルールが、支配者層が血族結婚することを防いできました。

しかし私たちは現在復讐を始めた人々について話すべきでしょう。彼らはエリート主義を信奉しています。民主主義のようなものではなく、お山の大将のようなものです。

【フルフォード】1985年に日本は、アメリカ型のシステムを導入するよう強要され、官僚支配を崩壊させ、すべて市場に任せる新自由主義へと転換していきました。

日本では誰もが官僚になる可能性があります、とても難しい試験に合格しなければなりません。とても頭がよくて、勉強を一生懸命しないと就職できないのです。

【ザガミ】あなたが理解していないこと、いや、理解していても認めたくないことは、血族主義と民主主義とは違うという点です。

血族主義は民主主義のシステムではなく、ヒエラルキー（階層構造）です。血族主義という帝国は動物界に以前から存在していたものなのです。

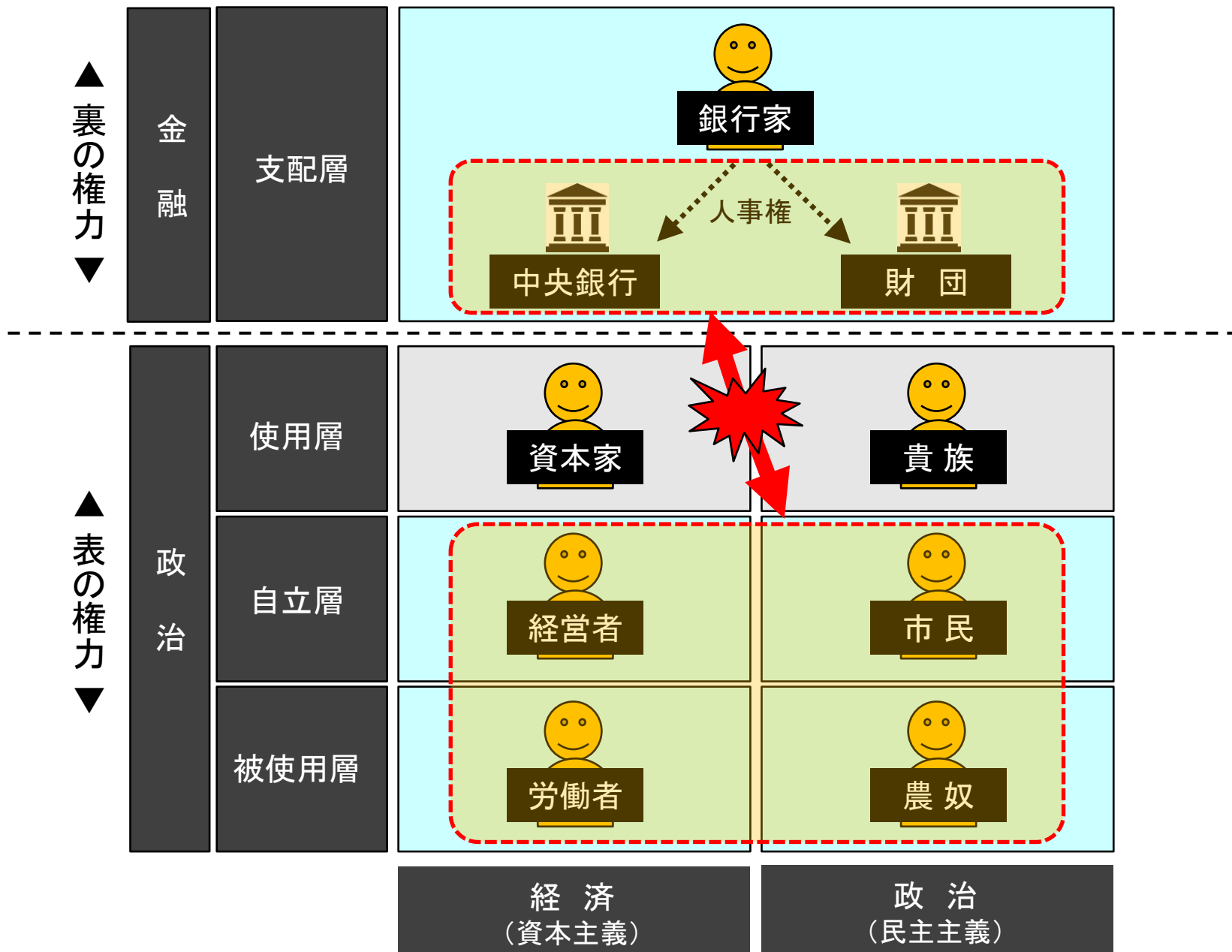
【フルフォード】私が信じているのはメリトクラシー（能力主義）です。

ある名家の24代目という人に会いましたが、24代目になる頃には、最初の100万分の1の遺伝子しかないんです。その家族の古い時代からの伝統はありますが、これはある意味誰でもが学べることです。

【ザガミ】血筋による世襲制というのは、日本においても、同様にインドにおいても、霊的なもの --- つまり、目に見えない力 --- と関係しています。あなたは先ほど遺伝子といいましたが、呼び方はなんでもかまいません。

天使的なものと悪魔的なものがある。これは別の次元のものです。

# 「新しい物語」を語る (1/2)



ピケティは民主主義を信じており、世界は民主主義によって動かされるべきだという強い信念を持っています。彼はこう述べています。

「資本主義は民主主義に隷属するものであって、その逆ではない」

つまり、「資本主義と民主主義とでは、民主主義の方が上位に位置する概念であり、民主主義が資本主義に支配されてはならない。そうではなく、民主主義によって、資本主義をコントロールしなければならない」ということです。

根底にある「民主主義が資本主義に支配されてはいけない」という考え方は間違いではないでしょう。ただ、そこから導き出された提案が、「所得と資本の両方にグローバルに掛ける累進課税」というものになってしまったのが不思議でなりません。民主主義を前面に出しながら、なぜ累進課税という「政府」頼みの方策を提案するのでしょうか。

政府が正しい民主主義によって、一般市民の意思を代表している状態であればそれでもいいのかもしれませんが、現状では政府はごく一部の、自分たちに組織票を入れてくれる組織の利益の代弁者と成り下がっています。

すべての国で民主主義が正しく機能するためには、不正のない選挙が行われることはもちろん、組織票が意味をなさなくなるほど投票率が高くなる必要があるでしょう。そうなれば、政府は多くの一般市民の意見を無視できなくなりますから、政府の政策にも信頼性が増してきます。

しかし、ごく一部の利権団体の利益で動く現状の政府に任せたのでは、結局は民主主義が資本主義の奴隷となってしまうでしょう。